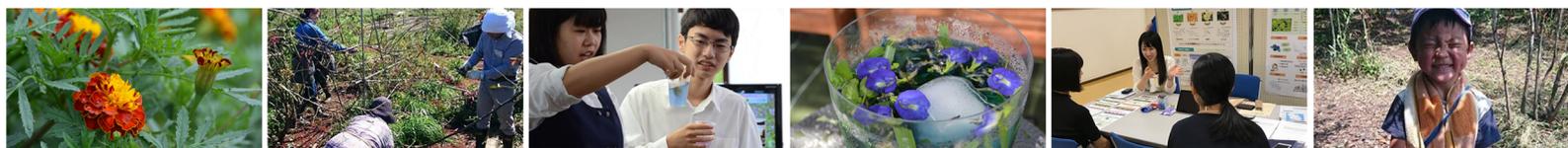




創業70周年記念写真(自社CSR管理下 佐倉ハーブ園)

株式会社 常磐植物化学研究所 CSR Report 2019
(社会・環境活動レポート2019)

対象期間：2018年4月～2019年3月 発行日：2019年10月28日



植物のちからを健康に。

目次	1
社会への貢献を目指して	3
創業70周年と EA21 活動10年を迎えて	4
社会地域とともに	
【佐倉市立根郷小学校:実験教室】	5
【千葉県立佐倉高等学校:佐倉アカデミア(SSH指定校)】	5
【千葉大学:国際研究発表会】	5
【女子中高生夏の学校2018】	6
【市原中央高校:ハーブ園講習】	6
【日本橋薬祖神への奉納】	6
【周辺美化活動】	6
【防災訓練】	6
【献血】	6
【ハーブ植物園を通じたお客様との対話】	7
【佐倉チューリップフェスタへの協賛】	7
【薬用植物に関する情報提供】	7
従業員とともに	
【労働安全衛生に関わるマネジメント体制】	8
【地域消防団への参加】	8
【人と人が繋がる職場づくり】・【キャリア支援】	9
【ワークライフバランス】・【女性の活躍支援】	9
【クラブ活動(軟式野球部・茶道部)】	9
【社員旅行】	9
【年末レクリエーション】	9
【夢応援制度】	9

植物化学の発展のために

【研究機関、大学との共同研究】	10
【自社研究報告】	10
【植物化学に関連する学会、研究会への参画・寄付・協賛】	10
【植物化学に関連する各種加盟団体】	10

持続可能(サステナブル)な社会のために

【ゼロエミッション活動】	11
【薬用植物の栽培】	11
【水質に配慮した生産活動】	11
【グリーン調達・グリーン購入】	11

環境活動レポート(エコ・アクション21)

エコ・アクション21とは	12
環境方針	12
登録事業所の概要・環境経営組織図	13
EA21登録10年を振り返って	14
環境活動の取組計画と評価	15・16
2019年度 環境活動計画	17
中期目標(2019年～2021年)	17
環境関連法規制等の遵守状況	18
代表者による評価と見直し	18

常磐植物化学研究所 CSR Report 2019

【社会への貢献を目指して】

常磐植物化学研究所のCSR Report 2019をご覧ください、誠にありがとうございます。

弊社は、1949年の設立当初から植物化学の成果の医薬的応用によって、社会公衆の福祉増進へ寄与することを掲げ、社員の幸福と社会の発展に貢献する良き企業市民であることを経営理念の柱のひとつとしています。2008年より環境経営システムを導入し、弊社の社会・環境活動をご報告するCSRレポートを2009年より発行しています。本CSR Reportで弊社の取組を紹介しております。ご覧いただくと幸いです。今後も事業活動を通じて植物化学と地域社会の発展に貢献して参ります。



株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

「設立趣意書」

本社は薬学博士松尾仁氏を中心とする研究陣の豫ねて理想とする植物化学の成果の医薬的応用により、社会公衆の福祉増進に寄与することを念願として設立するものである。

したがって本社の事業は単に営利のみを目的とせず、一半の力を植物化学の発達にも投ぜんとするものである。

若し之に依って祖国再建の礎石の一半を荷うこととなれば、本社設立の趣旨は達成されたに近い。

昭和二十四年八月
株式会社常磐植物化学研究所 設立発起人

「経営理念」

- 1.植物の力を引き出し、新たな価値を創造します。
- 2.最高の技術で、最高の製品を製造します。
- 3.社員の幸福と社会の発展に貢献します。

「CSR基本理念」

植物のちからを引き出し、新たな価値を創造し、人々の健康的な暮らしと社会の発展に貢献します。植物資源の調達から、植物化学研究、製品化まで、地球環境、社会への影響を重視し、持続可能な開発を目指します。また、薬用植物の栽培と教育を通じて、人と植物の明るい未来づくりに貢献します。

当社は1949年(昭和24年)10月8日に創業し、今年で70周年を迎えます。元・厚生省東京衛生試験所所長の松尾仁が創業者の一人である当社は、当時血管強化の薬効が期待されていたルチン開発からスタートしました。そして天然物への需要が高まる中、生薬甘草の有効成分であるグリチルリチンの医薬品製造承認の取得、代替甘味料として高含有量のグリチルリチンを食品分野へ供給するなど、時代の要求にいち早く応じてまいりました。1980年代には健康食品分野の成長を見据え、世界で初めて市場にイチヨウ葉エキスを供給するとともに、現在も大きな市場であるブルーベリーエキス(ビルベリーエキス)の市場形成を担ってきました。

「研究所」の社名の通り、製造のみならず、その研究成果を社会に還元することを目指す創業理念のもと、多くの大学・研究機関とネットワークを構築してまいりました。70年にわたって植物とともに歩んできた当社として、本年は学術分野の一層の発展に寄与すべく植物化学分野のシンポジウムを共催いたします。

創業100年に向け、当社は世界一の植物化学企業を目指すスタートラインに立っています。時代と環境の変遷に柔軟な思考と行動が可能な専門家として一人ひとりが変遷をいち早くとらえ、対応し、新たな道を切り拓くことが求められています。常磐植物化学研究は人を育て、環境経営を実践することで百年企業を目指します。



環境への影響を配慮した経営のためにエコアクション活動を開始して今年で10年となりました。取り組み当初は社員に如何に環境意識を浸透させるかに悩むこともありましたが、「継続は力なり」。今では社員の環境への意識と行動はしっかりと根付き活動を担っています。

10年を迎えたエコアクション活動、次の10年は地球環境の保全に加え、植物資源の栽培・教育を推進します。



当社は実験講座、体験実習を通じて科学が身近にあることを体感してもらい、次世代の科学技術系人材の育成の貢献に取り組んでいます。

戦後初の植物化学企業として、製品の販売だけでなく、科学発展の一助になればと考えています。

子どもが科学技術に親しみ、学ぶことができる環境や科学技術に才能を有する子どもを見出し伸ばすことができる環境を提供するため、理数学習の充実に努めています。



佐倉市立根郷小学校:実験教室

小学生向けの理科教室を2009年から継続して実施しています。

1月29日に根郷小学校の理科クラブの生徒さんに、「植物の色を調べてみよう！植物成分を味見してみよう」という実験教室を行いました。

野菜や果物から得られた色の特徴を比べ、生活の中でどんなものに活かされているか皆で話し合いました。また、砂糖と比べてとても甘く、でも苦みのあるカンゾウの味に驚いている様子でした。

集まってくれた4年生から6年生の子どもたちは、実験の結果について、一生懸命観察・考察を行っていました。

45分という短い時間でしたが、今回の実験教室は、科学についてさらに興味を持つきっかけになったようです。



千葉県立佐倉高等学校:佐倉アカデミア(SSH指定校)

2012年から行っている佐倉アカデミアも7月10日に第7回を数えました。

千葉県立佐倉高等学校の1年生22名を対象に、常磐植物化学研究所にて植物成分の精製・植物の色について講義・実習を行ったのち、工場施設及びハーブ園の見学を行いました。

施設見学を行うことで、科学が実際に利用されている生産現場を知ってもらいました。この佐倉アカデミアが植物に興味・関心を持つきっかけになればと考えています。



千葉大学:国際研究発表会

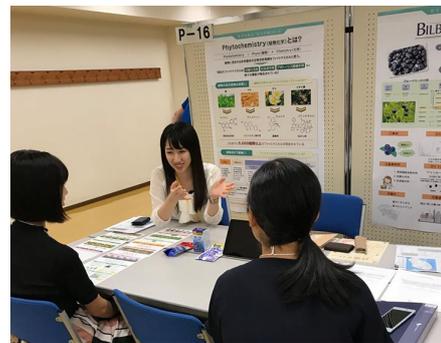
2月17日に千葉大学にて「国際研究発表会」が開催され、企業展示を行いました。この発表会は、高校生が国際舞台で活躍するためのコミュニケーション能力を獲得することと、ASEAN諸国との科学コンソーシアムの連携強化を図ることを目的としています。当社の展示にも植物化学に興味を持ったたくさんの学生・教員の方々が訪れました。





女子中高生夏の学校2018

8月10日、「女子中高生夏の学校2018～科学・技術・人との出会い～(夏学)」に参加しました。「研究者・技術者と話そう」という企画にてポスターセッションを行い、植物化学の魅力、理系の働き方について説明しました。このイベントが、来てくれた女子中高生にとって少しでも進路決定のヒントになればと思います。



市原中央高校:ハーブ園講習

9月21日に市原中央高校ハーブ研究会のみなさんが当社ハーブ園へ来園しました。生憎の雨模様でしたが、ハーブ園を散策し、ハーブが持つ香りを楽しみました。柴田園長によるハーブの講義では、ハーブティーの色が変わる実験を行ないましたが、みなさん興味津々で、色が変わる瞬間には大きな歓声があがりました。



【日本橋薬祖神への奉納】

10月17日に日本橋の薬祖神で薬祖神祭が行われ、薬への感謝と、一年の無病息災をお祈りしてきました。今後も、歴史ある日本橋の薬祖神社の発展に協力してまいります。



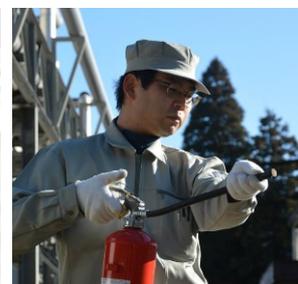
【周辺美化活動】

2007年11月より開始し3月の活動で122回をかぞえました。おそろいのジャンパーを身につけ、2012年11月(第49回目)からは美化活動に加え「挨拶で地元を元気に！」の合言葉の下、挨拶運動を開始しています。



【防災訓練】

本社では年1回、全員参加の防災訓練を行っています。今年も12月28日に行いました。移動した先では、防火委員会の方から消火器の使い方の講習を受けた後、実地訓練を行いました。



【献血】

毎年、従業員が献血に協力しています。この献血は就業時間中に従業員が自由に参加できることから、一番協力しやすい社会貢献の一つとして、実施しています。





【ハーブ植物園を通じたお客様との対話】

本社工場に隣接したハーブ園では、一般の植物園では見かけることの少ない有用植物を含む、100種類を超える西洋ハーブや東洋ハーブを無料で見学していただいています。また、Facebookを通じて情報を提供しています。



＜お客様の憩いの場として＞

毎月1回、グリーンアドバイザーの皆様とともにハーブ園を整備する日を設け、様々なハーブの植え付けや収穫、切り戻し、株上げなどを行っています。皆様、楽しみながら取り組んでいただいています。ハーブに関するレクチャーや、寄植え体験などのワークショップも開催しています。

＜ハーブを身近に感じてもらう活動＞

ハーブにまつわる体験型のワークショップを行うなど、ハーブを身近に感じていただく様々な活動にも取り組んでいます。春の寄植え体験や夏のブルーベリー摘取りなど四季折々の体験教室のほか、6月には長野県佐久薬草研究会の方々が、7月には日本アロマ蒸留協会の方々が来園され、それぞれハーブを試食したり、蒸留を体験したりしました。



【佐倉チューリップフェスタへの協賛】

印旛沼のほとりにある佐倉ふるさと広場で開催される、「佐倉チューリップフェスタ」に協賛しています。昨年11月に植えた球根が芽吹き、4月に咲きそろいました。4月には切り花体験イベント、5月には球根の掘り取りを行い、11月には次の年に向けて2500球の球根を植え付けました。



【薬用植物に関する情報提供】

Webサイト内の「薬用ハーブ辞典」(<http://www.tokiwapl.co.jp/herbs/>)では、29種類の西洋ハーブや東洋ハーブについて、学名、成分、概要、生理活性等の情報を提供しています。植物成分に関する情報の発信を通じた薬用植物の有効利用へ、今後も内容を充実させていきます。



従業員とともに

従業員が安心して働けるよう、労災事故件数0を目標に、安全な職場づくりに取り組んでいます。

☆人の健康と安全はすべてに優先し、労災事故ゼロ化活動に取り組んでいます。

☆一人ひとりの安全意識の向上、設備面・作業面のリスク低減にむけた活動を継続しています。



【労働安全衛生に関わるマネジメント体制】

厚生労働省の指針に基づく、労働安全マネジメントシステムに沿い、安全な職場づくりに取り組んでいます。毎月「安全衛生委員会」を開催し、「リスクアセスメント」による潜在的リスクの低減活動を中心に、全員参加の安全衛生活動を推進しており、労働安全面のさらなる向上に取り組むとともに、メンタルヘルスに重点を置いて衛生・健康面の取り組みを強化しています。また、5S活動、安全ルールの遵守、リスクアセスメントの徹底、教育・支援の強化、災害撲滅のPDCAサイクルの確実な実行に努めています。

<安全衛生状況確保のための教育>

- ・労働安全教育(外部講師を招いての安全教育(5S教育・フォークリフト始業前点検))
- ・リスクアセスメント担当教育
- ・各工程におけるリスクアセスメント教育
- ・機械操作によるリスクアセスメント教育
- ・技能講習・特別教育の受講
- ・外部講習への参加

<自主的な安全衛生管理の向上>

- ・安全衛生基準の設定
- ・安全衛生委員会会議の実施
- ・全国安全週間、全国労働衛生週間、長期連休明け社内独自安全週間の設置
- ・安全衛生委員の構内巡視と従業員への安全遵守
- ・フォークリフト特定自主点検の実施
- ・保護具着用の徹底
- ・作業手順の周知と遵守

<健康の保持促進と快適な職場環境の形成>

- ・ストレスチェックの実施
- ・ノー残業デーの設置
- ・労働時間管理、長時間労働者の状況確認とヘルスケアサポートの推進
- ・産業医との健康相談窓口の開設
- ・5S活動の実施
- ・熱中症予防対策の実施および熱中症が疑われる場合の迅速な対応

<資格取得促進法令遵守>

- ・危険物取り扱いに関する資格取得の奨励
- ・フォークリフト技能講習



上記4つを目標に掲げ、快適且つ安全なより良い職場環境作りを目指しています。



【地域消防団への参加】

佐倉市消防団第4分団に参加しています。

佐倉市の防災訓練に参加すると共に

歳末警戒活動などを通じて、火災予防を呼びかけています。



従業員とともに

一人ひとりがやりがいと誇りを持って働くことができるよう取り組んでいます。



【人と人が繋がる職場づくり】

会社組織で働く上で重要であるのは、社員がお互いに尊重し合い、認め合うことです。社員全員が同じ文章を読み、感想を述べ合い、美点重視で意見交換をする、「社内木鶏会」を実施しています。それぞれの考え方を尊重し、認め合うことで、仕事をする環境がより良いものになっています。



【キャリア支援】

OJTを通じ自立型人材を育成します。全ての社員に成長する機会を与えられるよう階層別、テーマ別研修を設けています。最近では、管理職のヒューマンスキルを高める研修や新人・若手社員の早期戦力化に向けた研修に力を入れています。



【ワークライフバランス】

長時間労働の削減と、休暇の取得促進に取り組んでいます。朝または夕方における2時間休暇や、月に一度のノー残業デーの実施、年に1度のハッピーファミリーデー(有休にあわせてお食事券)を付与する取り組みを継続しています。



【女性の活躍支援】

女性の活躍支援に取り組んでいます。新任管理職への研修などを実施。女性がこれまで以上に活躍できる職場環境づくりを展開してきました。お子様の成長に合わせて、柔軟に時短勤務制度を取り入れています。

【新入社員歓迎tokiwaフェスタ】

社員一同から、多肉植物の寄せ植えとケーキ、新人さんたちへのメッセージ「笑顔通信」をプレゼント。みんなでおいしい焼肉などの料理を楽しみました。最後の記念撮影まで笑顔にあふれた楽しい会でした。



【クラブ活動(軟式野球部・茶道部)】

当社では野球部や茶道部といったクラブ活動が行われています。特に野球部では、健康保険組合主催の大会に出場し、他の企業チームと試合を行って交流を深めるなどしています。



【社員旅行】

7月7日は、社員旅行で長崎のハウステンボスを訪れました。様々なアトラクションや草花の観賞、お買い物など、各自で自由に楽しみました。



【年末レクリエーション】

年末最終日には餅つきが行われています。つきあがったお餅は切り分けられ、きな粉もちやお雑煮にいただきます。お供え用の鏡餅も作りました。一年の労をねぎらい、お正月を迎えます。



【夢応援制度】

高度な趣味や特技に挑戦する社員を応援する「夢応援」制度を実施しており、3月末までに12件の報告がありました。



植物化学の発展のために

常磐植物化学研究所は植物化学の発展への貢献活動の一環として、関連する学会、機関、大学等への参画、協賛、共同研究等を行っています。

【研究機関、大学との共同研究】

(研究機関) 国立医薬品食品衛生研究所、かずさ DNA 研究所、国立精神・神経研究医療センター、国立医療長寿健康センター、富山県薬事研究所、東京都医学研究所

(大学等) 東京大学、大阪大学、京都大学、北里大学、星薬科大学、東京医科歯科大学、帝京大学、学習院大学、新潟大学、昭和薬科大学、福井県立大学等

【自社研究報告】

- ・糖尿病性血管障害時におけるイチヨウ葉エキスの血管弛緩メカニズム
- ・エフェドリンアルカロイド除去麻黄エキス (EFE) に関する発表
- ・Endocrine therapy-resistant breast cancer model cells are inhibited by soybean glyceollin I through Eleanor non-coding RNA
- ・A simple and effective preparation of quercetin pentamethyl ether from quercetin
- ・サートマックス日本特許 サーチュイン活性化剤
- ・Apocynum venetum leaf extract reverses depressive-like behaviors in chronically stressed rats by inhibiting oxidative stress and apoptosis
- ・Apocynum venetum Leaf Extract Exerts Antidepressant-Like Effects and Inhibits Hippocampal and Cortical Apoptosis of Rats Exposed to Chronic Unpredictable Mild Stress
- ・A Double-Blind, Randomized, Crossover Comparative Study for Evaluating the Clinical Safety of Ephedrine Alkaloids-Free Ephedra Herb Extract (EFE)

【植物化学に関連する学会、研究会への参画・寄付・協賛】

日本学術振興会、植物化学シンポジウム(植物化学研究会)、日本生薬学会、日本植物細胞分子生物学会、日本薬史学会、メタボロームシンポジウム

創業70周年記念事業の一環として、第56回植物化学シンポジウムを植物化学研究会と共催いたします。

第56回 植物化学シンポジウム

(株)常磐植物化学研究所 創業70周年記念シンポジウム

「植物化学研究の基礎と展開」

日時 : 2019年11月19日(火) 10:00~18:40
会場 : 東京大学薬学部総合研究棟講堂、会議室(東京都文京区本郷7-3-1)
(詳細は <https://www.tokiwaph.co.jp/70thsymposium/> でご確認いただけます)

【植物化学に関連する各種加盟団体】

(公社)東京生薬協会、(公社)東京医薬品工業協会、日本漢方生薬製剤協会、日本医薬品原薬工業会、(一社)千葉県製薬協会、(一社)日本食品添加物協会、(公財)日本健康・栄養食品協会、(一社)日本栄養評議会、(一社)日本健康食品規格協会、化粧品原料協会、甘草工業懇話会、ステビア工業会、(一社)日本ブルーベリー協会、千葉県食品産業協議会

持続可能(サステナブル)な社会のために

「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「自然との共生」をめざし、地球環境と調和した事業活動を通して環境負荷の低減に取り組んでいます。



【ゼロエミッション活動】

植物資源を無駄なく使用し、廃棄するものを少なくすることにより、環境への負荷を軽減します。

植物エキスの製造後に排出される搾りかす、及び排水処理場の余剰汚泥を肥料へリサイクルするなどの取り組みを行っています。

リサイクルされた肥料は作物の栽培に利用され、新たな植物資源を生み出しています。



植物エキス製造



栽培



残渣堆肥化



【薬用植物の栽培】

(佐倉ハーブ園)

薬用植物や生活に役立つハーブなどを集め、約5000m²のハーブ園を設け、無料で広く市民に公開しています。皆様に見ていただけるようになってから17年目になりました。

(日本イチョウファーム)

新地町に広大な栽培農場を持つ日本イチョウファームは、長年にわたる栽培技術の研究と無農薬・化学肥料を用いない有機農業で、最高品質のイチョウ葉を生産しています。

その中でも、研究栽培農場の面積は2.0ヘクタールと最も大きく、高品種のイチョウ葉を生産するための試験栽培をすすめています。



【水質に配慮した生産活動】

工場での水資源の無駄づかいをなくすための改善を積み重ねるとともに、使用後の排水をきれいにして自然に還すために水質保全に取り組んでいます。

工場に併設されている排水処理設備においては、「活性汚泥処理法」を採用しています。微生物が排水の汚れである栄養成分を食べることにより、汚れを取り除いています。



【グリーン調達・グリーン購入】

グリーン調達とは、原材料・資材・設備などの購入に際し、有害物質を含まない、資源が有効に活用されている、など環境に配慮した物品・サービスを優先的に選択することです。

持続可能な社会の構築のために、使用する物品について、環境負荷ができるだけ小さい原材料・資材・設備等の購入をめざします。

常磐植物化学研究所は、環境経営を実践するために、環境省が策定したガイドラインである「エコアクション21認証登録制度」に登録し、自らの環境への取り組みを推進しています。またエコアクション21に参加する事で、地域環境の取組みも積極的に行っています。

エコアクション21とは、全ての事業者が、環境への取り組みを効果的・効率的に行うことを目的に、環境に取り組む仕組みを作り、活動し、継続的に改善し、その結果を社会に公表するための方法について、環境省が策定したガイドラインです。

エコアクション21ガイドラインに基づき、取り組みを行う事業者を審査し、認証・登録する制度がエコアクション21認証・登録制度です。



環境方針

わたしたちは地球環境問題を重視し、次の項目を経営課題として取り組みます。

1. 環境経営体制の強化

環境改善を継続的かつ発展的に行っていくための経営管理サイクルを強化します。

2. 脱地球温暖化に向けた省エネルギー及びCO₂排出削減の推進

エネルギー効率を高め、環境にやさしい事業活動に取り組みます。

3. 循環型社会のための3R(Reduce、Reuse、Recycle)の推進

廃水、廃棄物及び食品廃棄物の低減、化学物質使用量削減、有効資源の再使用、紙、ダンボール、金属及び食品等の再資源化を積極的に行います。又、グリーン購入の推進に努め、食品製造工程の改善により、原材料ロスを削減します。

4. 環境関連法規の遵守

環境法規を遵守し、国や地方の行政方針に従います。

5. 環境方針の周知と社内教育の推進

地球環境と共栄していくために、社員一人一人の環境保全の意識を高めます。また、薬用植物の栽培と教育を推進し、薬用植物の保全に貢献します。

6. 地域の人々との共生

地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。

2019年4月1日

株式会社 常磐植物化学研究所

代表取締役社長

立崎 仁

登録事業所の概要・環境経営組織図

事業者名及び代表者名

株式会社 常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

所在地

本社・工場 : 千葉県佐倉市木野子158番地 <https://www.tokiwaph.co.jp/>
東京支社 : 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 生産本部 生産管理部 次長 : 佐々木 務
担当者 EA21事務局 : 嶋田 典基 TEL 043-498-0007

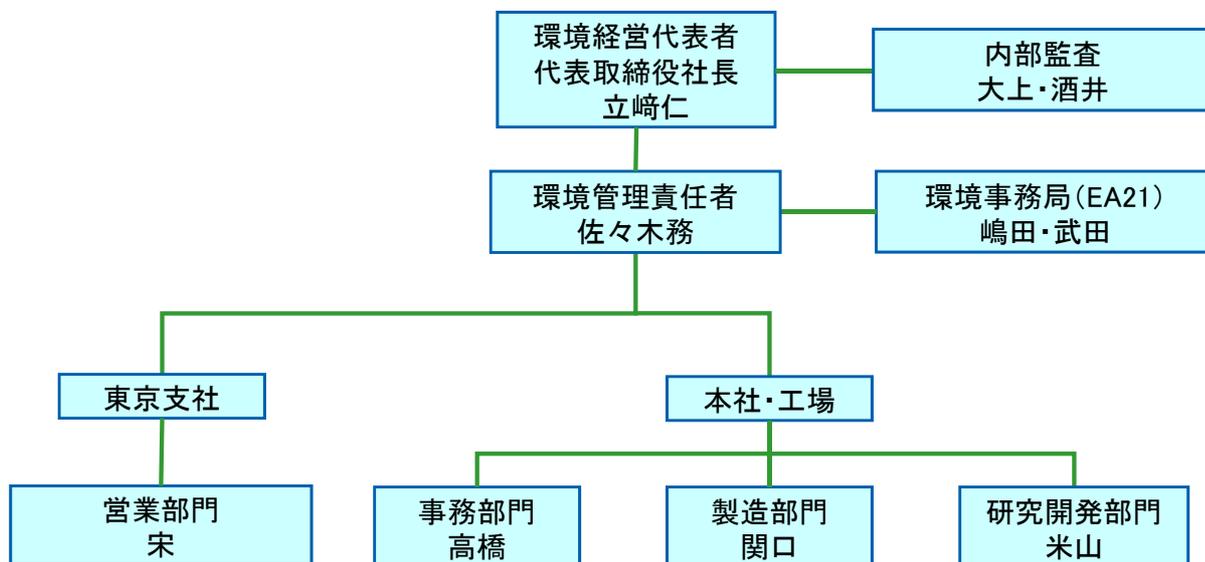
事業内容(認証・登録の範囲)

認証・登録番号: 0003872
認証・登録年月日: 2009/07/13
認証・登録事業者名: 株式会社常磐植物化学研究所
対象事業所名: 本社・工場、東京支社
所在地: 千葉県佐倉市木野子158番地
事業活動内容: 医薬品原薬、化粧品原料、機能性食品原料及び食品添加物の製造・販売

事業規模

資本金	7,750万円		
主要製品生産量	183 t/年		
従業員	本社・工場 100名	東京支社 14名	(2019年4月1日現在)
工場延べ床面積	本社・工場 9,296 m ²	東京支社 138 m ²	

環境経営システム組織図



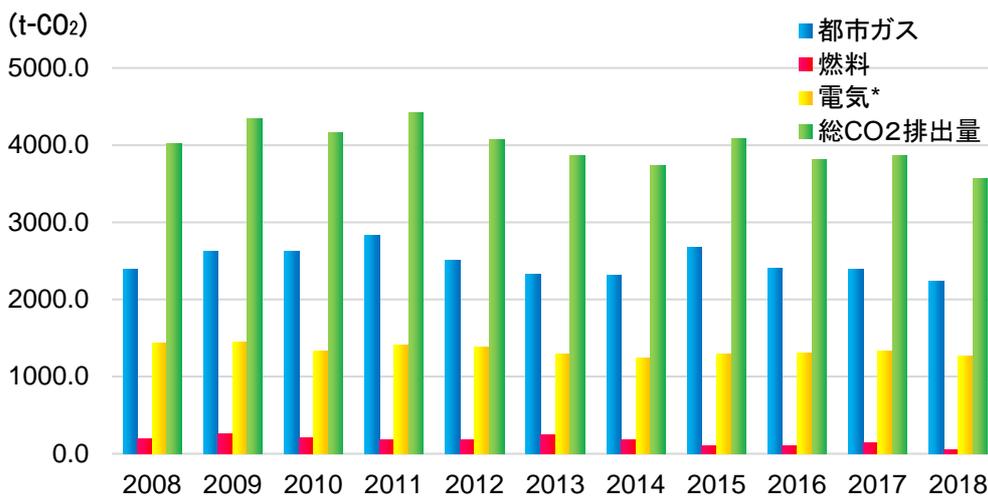
EA21登録10年を振り返って

EA21登録10年表彰をいただきました

2008年より環境経営システムを導入し、2009年7月にEA21認証取得以後、経営理念・環境方針に基づいた取組を進め、2019年7月を以てEA21継続10年を迎えました。この折に、エコアクション21中央事務局より感謝状・記念品を賜り、代表者・立崎はじめ、環境事務局メンバー、従業員一同より一層の環境経営促進に努めていく所存です。



CO2排出量の推移(2008-2018年度)

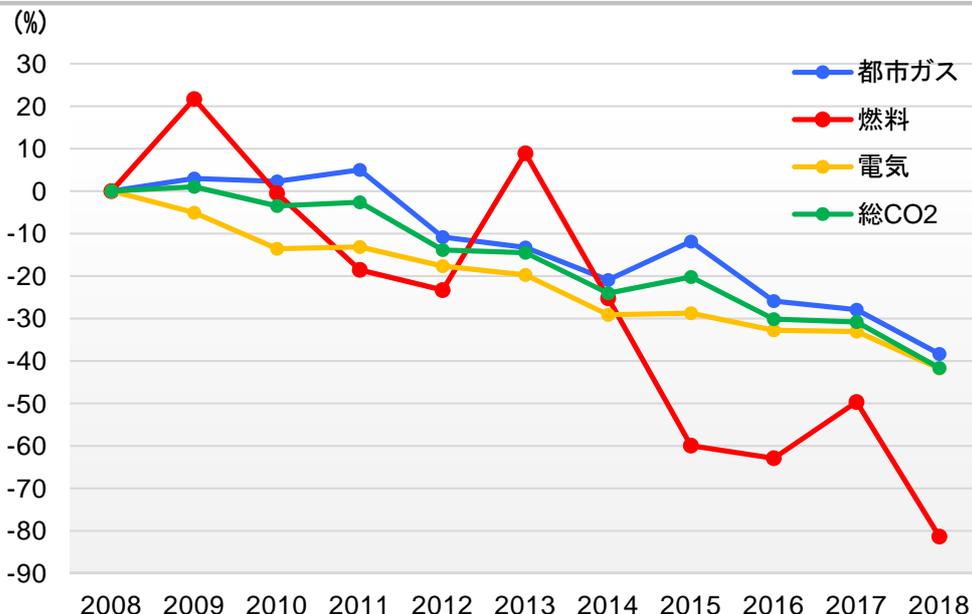


弊社EA21認証登録取得以降、試行錯誤を繰り返しながらCO2削減に取り組み、2018年度では認証取得基準年度の2008年度より総CO2排出量を約10%削減しております。

生產品目の都合上CO2排出量の増減はありますが、この期間に、重油使用の縮小・停止やフォークリフトの電動式への切換え等、燃料由来のCO2削減に関しては大きな成果を挙げております。

2018年度9月には、ボイラーを更新し、東京ガスのエネルギーサービス“スチームフィット”の活用を開始しました。今後もさらなるCO2排出量の削減に取り組んでまいります。

CO2排出量/売上の変化率(対2008年度)



経営原単位当たりのCO2排出量は継続して低減しており、経営のエネルギー効率を向上できております。

最近では特に、2015年度に機能性表示食品制度が施行開始し、エビデンスの確かな素材の市場ニーズが高まったことで、弊社の高付加価値製品の供給が拡大し、相対的にエネルギー効率が向上しております。

今後さらに高まるであろう機能性素材・エビデンスの確実性に対し、研究開発型の弊社の強みを存分に発揮して市場・顧客の期待に応え続けることで、エネルギー効率のさらなる向上を図ってまいります。

環境活動の取組計画と評価

■ 中期目標 (2016年~2018年)

項目	基準値 (2013-2015年度平均)	2016年度	2017年度	2018年度
本社・工場				
二酸化炭素排出量(電力)の節減	1,338 t-CO ₂	1,331 (0.5%節減)	1,328 (0.7%節減)	1,324 (1.0%節減)
二酸化炭素排出量(燃料)の節減	2,538 t-CO ₂	2,525 (0.5%節減)	2,520 (0.7%節減)	2,513 (1.0%節減)
一般廃棄物の削減	38.7 t	38.3 (1.0%削減)	38.1 (1.5%削減)	37.9 (2.0%削減)
産業廃棄物の削減	74.4 t	73.7 (1.0%削減)	72.9 (2.0%削減)	72.2 (3.0%削減)
総排水の節減	107,570 m ³	106,494 (1.0%節減)	105,419 (2.0%節減)	104,343 (3.0%節減)
化学物質 使用量の削減	PRTR法対象 化学物質	1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
グリーン購入の推進	33品目	36品目(10%増加)	40品目(20%増加)	43品目(30%増加)
食品廃棄物リサイクル率の維持	98.0%以上	現状維持	現状維持	現状維持

東京支社

二酸化炭素排出量(電力)の節減	6,300 kg-CO ₂	基準値への低減	基準値以下を維持	基準値以下を維持
一般廃棄物の削減	307 kg	現状維持	現状維持	現状維持
総排水の節減	100.3 m ³	基準値への低減	基準値以下を維持	基準値以下を維持
グリーン購入の推進	6品目	7品目(20%増加)	8品目(40%増加)	9品目(50%増加)

※電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2015年の値(調整後) 0.496 kg-CO₂/kWhを使用する。

2018年度環境目標及びその実績

項目	年度	全社			本社・工場			東京支社			
		2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度	
二酸化炭素排出量(電力)の節減 [目標値]	t-CO ₂	1,377 [1,337]	1,400 [1,334]	1,336 [1,330]	1,370 [1,331]	1,394 [1,328]	1,329 [1,324]	7.2 [6.3]	6.9 [6.3]	7.4 [6.3]	
二酸化炭素排出量(燃料)の節減 [目標値]	t-CO ₂	2,523 [2,525]	2,530 [2,520]	2,299 [2,513]	2,523 [2,525]	2,530 [2,520]	2,299 [2,513]				
二酸化炭素総排出量の節減 (対売上比)	変化量 (%)	-13.6	-1.4	-15.6							
年間電気使用量	千kWh	2775.8	2824.9	2694.9	2761.4	2811.0	2680.1	14.4	13.9	14.8	
一般廃棄物の削減 [目標値]	総量 (t)	39.3 [38.6]	38.1 [38.4]	37.1 [38.2]	39.0 [38.3]	37.9 [38.1]	36.8 [37.9]	0.25 [0.30]	0.26 [0.30]	0.26 [0.30]	
産業廃棄物の削減 [目標値]	総量 (t)	111.8 [73.7]	111.8 [72.9]	306.6 [72.2]	111.8 [73.7]	111.8 [72.9]	306.6 [72.2]				
総排水の節減 [目標値]	総量 (m ³)	122,375 [106,594]	86,941 [105,519]	75,980 [104,443]	122,289 [106,494]	86,850 [105,419]	75,869 [104,343]	86 [100]	91 [100]	111 [100]	
総排水の節減 (対売上比)	変化量 (%)	-8.7	-30.6	-20.2							
化学物質 使用量の削減	PRTR法対象 化学物質	変化量 (%)	+14.9	-38.1	+119.6	+14.9	-38.1	+119.6			
グリーン購入の推進 [目標値]	追加 品目数	7 [4]	5 [4]	0 [4]	5 [3]	3 [3]	0 [3]	2 [1]	2 [1]	2 [1]	
食品廃棄物リサイクル率の維持 [目標: リサイクル率80%以上維持]	リサイクル率(%)	98.3	98.3	99.4	98.3	98.3	99.4				
参考 / 製品の拡売	生産量(t)	143	156	113	143	156	113				
	上段: エキス製品 下段: 液剤製品	152	107	70	152	107	70				

※電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2015年の値(調整後) 0.496 kg-CO₂/kWhを使用する。

※再生利用等実施率の実績値に関する「内訳」: ①発生量 592.0 t ②発生抑制の実施量 206.6 t ③再生利用実施量 588.2 t ④熱回収実施量 0.0 t
⑤廃棄物の減少実施量 0.0 t ⑥再生利用以外の実施量 0.0 t ⑦廃棄物処分実施量 3.8 t
食品循環資源の再生利用実施率(%) = ((②+③+④) × 0.95 + ⑤) ÷ (①+②) × 100

環境活動の取組計画と評価

2018年度 省エネ・省資源取り組み、地球温暖化防止取り組み評価

本社・工場

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・休憩時間中の照明の消灯・エコプロ導入電気使用量削減	目標:1,324 t-CO ₂ 実績:1,329 t-CO ₂ 99.6 %	売上増の中、ほぼ節減目標の達成した。今後の工場稼働の拡大と、益々の温暖化による作業環境の変動を見据え、目標の再設定や新たな取組みの立案を行う。
二酸化炭素排出量(燃料)の節減 ・エコドライブ運動の推進・蒸気潜熱低減、ボイラー管理強化	目標:2,513 t-CO ₂ 実績:2,299 t-CO ₂ 100.9 %	ボイラー設備の更新と蒸気ラインの動線改善により、目標排出量の節減を達成した。引き続き管理する。
一般廃棄物の削減 ・消耗品の購入管理 ・分別BOXの管理、リサイクル意識向上	目標:37.9 t 実績:36.8 t 100.2 %	リサイクルの意識は定着して、活動は継続できている。今後も更なる意識向上と、管理および削減努力を継続する。
産業廃棄物の削減 ・有機溶媒の省力化・産業廃棄物管理	目標:72.2 t 実績:306.6 t 23.5 %	長期滞留していた構内不要物(設備、半製品等)の廃棄を実施したための増加であり、本年度の生産で発生したものではない。単年に発生する産業廃棄物の削減にはこれまで以上の目標を設定する。
節水 ・各工場への節水教育・退出時の見回り実施、節水意識向上	目標:104,343 m ³ 実績:75,869 m ³ 137.5 %	前年に引き続き雨水の工場排水への混入防止策の実施ならびに生産品目の都合上、総排水量は減少した。今後も節水教育、および、更なる雨水の工場排水への混入防止策の継続する。
化学物質使用量の削減 ・PRTR法対象化学物質使用量の確認 ・分析機器移動層の適正量調整 ・移動相使用量削減に向けたHPLC分析法の確立 ・エタノール回収量の把握と管理 ・残渣乾燥機のランニングコスト管理	PRTR法対象化学物質 目標: 2.0 %減 実績: 10.4 %増 エタノール 目標: 5.0 %減 実績: 4.2 %減	使用量が少なかった前年と比べると使用量が増加したため、目標値を達成出来なかった。今後は過去の傾向から削減努力を継続しつつも使用量の管理・維持に重点をおく。 エタノール使用量についても使用量は低減した。今後は回収量の把握・管理など具体的な対策を立案し、実行する。
グリーン購入の推進 ・日用品、文房具の購入検討及び購入	目標:3品目追加 実績:0品目追加 0 %	これまで該当製品への切り替えを目標としてきたが、切换自体が難しい状況になってきている。今後は切换のみでなく、グリーン購入比率の向上など、別の指標で管理を行うなど目標を設定する。
食品廃棄物のリサイクル率の維持 ・リサイクルの推進・動植物性残渣の低減	目標:80.0 %以上 実績:99.4 %	継続的に取り組み、目標を達成できている。管理を怠らず実施していく。
地域社会との共生 ・周辺地域の毎月1度の定期ゴミ拾い	達成	毎月の活動を継続できている。さらなる地域社会の活性化に貢献していく。

東京支社

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・エアコン設定温度の管理・未使用機器の電源を切る	目標:6.30 t-CO ₂ 実績:7.35 t-CO ₂ 85.7 %	直近3年間は目標値を超えていることから、節減努力を継続していくとともに、目標の見直しを行う。
一般廃棄物の削減 ・裏紙使用によるコピー用紙の削減・書類の紙媒体削減	目標:307.0 kg 実績:256.1 kg 119 %	目標を達成しており、引き続き高い意識を持って、削減努力を継続する。
節水 ・節水の周知徹底、節水機器の設置・退出時の見回り実施	目標:100 m ³ 実績:111 m ³ 90.1 %	前年度からの増加となり、目標達成に向けて改めて高い意識を持って、削減努力を継続する。
グリーン購入の推進 ・日用品、文房具の購入検討及び購入	目標:1品目追加 実績:2品目追加 200 %	継続的に取り組み、目標を達成した。引き続き、検討および購入を実施する。

総括(全体評価と見直し内容)

従業員の環境活動に対する意識は高く、環境活動の継続に取り組んでおり評価できる。二酸化炭素、排水、廃棄物などの総排出量の削減のみを目標とした活動だけでなく、資源を有効に活用した環境経営を行うために引き続き設備更新等による環境負荷の低減とPDCAサイクルの運用によって、環境に対する負荷を抑制しつつ、効率的な企業活動を行うための新たな目標を設定する。また、本活動も10年を経過し、企業としての取り組みは一定のレベルを維持出来ている。さらに従業員一人一人が環境を考えた個々の取り組みを活動に組み入れることで、環境を常に意識した行動がとれる従業員の育成する。

2019年度 環境活動計画

■ 中期目標 (2019年～2021年)

本社・工場	項目	基準値 (2018年度実績)	2019年度	2020年度	2021年度
	環境経営効率の向上 二酸化炭素排出量(売上比)の節減	100%	96% [4%向上]	90% [10%向上]	84% [16%向上]
	二酸化炭素排出量(電力)の節減	1,270 t-CO ₂	1,258(1%節減)	1,245(2%節減)	1,232(3%節減)
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	2,299 t-CO ₂	2,184(5%節減)	2,069(10%節減)	1,954(15%節減)
	環境経営効率の向上 一般廃棄物(売上比)の削減	100%	99.5% [0.5%向上]	97% [3%向上]	95% [5%向上]
	一般廃棄物の削減	36.8 t	36.8	36.8	36.8
	食品廃棄物リサイクル率の維持	98.0%以上	現状維持	現状維持	現状維持
	環境経営効率の向上 総排水(売上比)の削減	100%	99.5% [0.5%向上]	97% [3%向上]	95% [5%向上]
	総排水量の節減	75,869 m ³	75,869 m ³	75,869 m ³	75,869 m ³
	化学物質・エタノール回収率維持	回収率80%	80%	80%	80%
東京支社	環境経営効率の向上 二酸化炭素排出量(売上比)の節減	100%	96% [4%向上]	90% [10%向上]	84% [16%向上]
	二酸化炭素排出量(電力)の節減	7,030 kg-CO ₂	基準値を維持	基準値を維持	基準値を維持
	一般廃棄物量の管理	263 kg	現状維持	現状維持	現状維持
	総排水量の管理	111 m ³	現状維持	現状維持	現状維持
全社	グリーン購入の推進	新規品目	2	1品目以上	1品目以上
		購入見直し	-	1品目以上	1品目以上

※電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2018年の値(調整後) 0.474 kg-CO₂/kWhを使用する。

■ 2019年度 取り組み予定

	項目	取り組み内容
本社・工場	二酸化炭素排出量(電力)の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■ 工場・施設照明のLED切替 ■ 省電力機器の検討・導入による消費電力の削減
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■ 蒸気配管の保温、ドレーントラップ・安全弁の点検・交換 ■ 蒸気効率利用教育訓練の受講
	一般廃棄物の削減	■ 廃棄物量・分別の管理
	産業廃棄物の削減	■ 産業廃棄物量・分別の管理
	食品廃棄物リサイクル率の維持	■ 食品廃棄物の分別の徹底及び管理
	総排水量の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■ 工場内の水漏れの定期点検 ■ 工場用水の使用量の把握と管理
	エタノール回収率維持管理	■ エタノール使用量・回収率の把握と管理
	化学物質使用量の管理	<ul style="list-style-type: none"> ■ 原料・資材等の在庫量・使用量の把握と管理 ■ 試薬・試液等の在庫量・使用量・排気量の把握と管理
	環境配慮製品の開発・販売促進	■ 再生品数低減のための課題の把握と教育
東京支社	環境経営効率の向上[売上の向上]	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規顧客開拓 ■ 国内外展示会出展
全社	グリーン購入の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 購入品の把握と継続的な購入推進 ■ HACCP管理義務化に伴う購入品目の見直し

環境関連法規制等の遵守状況

適用法令等の遵守状況

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
悪臭防止法	スプレー乾燥機、残渣乾燥機	○(届出、測定)
温対法	全事業所	○(定期報告)
下水道法	全事業所	○(定期報告、測定)
工業用水法	工業用井戸	○(許可、定期報告)
工場立地法	本社・工場	○(届出)
省エネ法	全事業所	○(届出、定期報告)
浄化槽法	浄化槽	○(届出、定期点検)
消防法	工場、蒸留塔、地下タンク 貯蔵所など	○(届出、測定)
振動規制法	工場設備	○(届出、測定)
騒音規制法	工場設備	○(届出、測定)
大気汚染防止法	ボイラー等	○(届出、測定)
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物	○(定期報告、 マニフェスト管理)

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
フロン排出抑制法	冷蔵、冷凍コンテナ等	○(該当機器の調査・点検)
食品リサイクル法	食品廃棄物	○(定期報告、 リサイクル率 99.4%)
家電リサイクル法	対象家電機器	○(廃棄実績の確認)
PRTR法	第一種指定化学物質	○(管理)
労働安全衛生法	本社・工場	○(健康診断、環境測定)
毒劇物取締法	毒物、劇物	○(管理)
公害防止組織法	本社・工場	○(届出)
容器包装リサイクル法	容器包装資材	○(申込み)
高圧ガス保安法	高圧ボンベ等	○(管理)
自動車リサイクル法	自動車	○(確認)
化審法	既存第二種監視化学物質	○(管理)
肥料取締法	堆肥場	○(届出、測定)

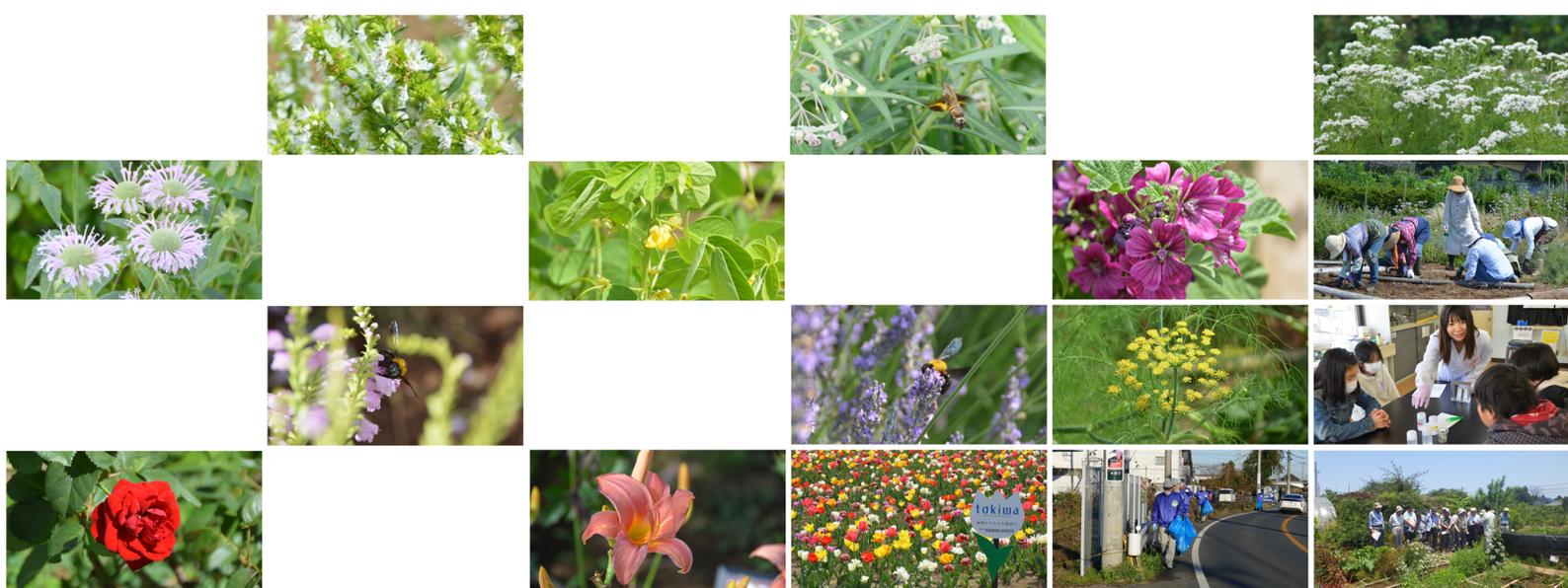
違反、訴訟等の有無

上記のように環境関連法規制等の違反はありません。また食品リサイクル法における再生利用等の実施率は80%以上を維持できています。
なお関係当局からの違反等の指摘は、過去8年間ありません。

代表者による評価と見直し

総括

例年水準の環境経営は実行できたが、ボイラーを全面更新した投資効果を確認するには至らなかった。新年度の目標は、①新規ボイラーのエネルギー効率を高め、環境負荷を低減する。②グリーン購入を推進する。③不必要なモノをリスト化し、購入しない。④薬用植物の栽培と教育を推進し、薬用植物の保全に貢献する。



株式会社常磐植物化学研究所 CSR Report 2019
 (社会・環境活動レポート2019) 第2版

株式会社常磐植物化学研究所 <https://www.tokiwaph.co.jp/>
 本社/工場: 〒285-0801 千葉県佐倉市木野子158番地 TEL043-498-0007 Fax043-498-0561
 東京支社 : 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6階 TEL03-5200-1251 Fax03-5200-1256